

【教育実践報告】

玉川学園キャンパスに生息する生物調査を活かした環境教育

西海太介^{1*}・浅田真一²・小野正人¹

要約

玉川大学生物自然研究部に所属の学生による40年間以上に亘る野外調査とモニタリングの結果の一部として、玉川学園のキャンパス内に生息する124種の身近な野生生物（昆虫類、植物類、キノコ類、鳥類、哺乳類）がカラー写真と簡潔な説明により紹介された。大学生によるこれらの継続的な調査と研究成果公表の試みは、同じキャンパスで学ぶ小学生、中学生、高校生の環境教育へも波及効果をもたらすことが期待される。

キーワード：環境教育、生物調査、玉川学園

緒言

生物や自然を対象とした環境教育の意義

各種公害や地球温暖化などの環境問題がとりざたされる昨今、環境教育はその解決に向けた教育として重要視されている。環境教育は、1992年のリオ・デジャネイロ国連環境・開発会議で採択されたAgenda21-持続可能な開発のための行動計画のなかで強調されており、第36章「教育、意識啓発及び訓練の推進」のなかでも、その重要性がうたわれている。また2002年の「国連持続可能な開発のための世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）」において「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）」が提起されたことを受け、2005年から「国連持続可能な開発のための教育の10年（United Nations Decade for Education for Sustainable Development）」が開始され、我が国の行政や地方自治体によって推進される、今日の「持続可能な社会づくりに向けた環境教育」につながっている（村上，2006）。またこれらの教育は、ヒトが自らの能力を低下させる「自己家畜化」と呼ばれる現象を抑える上でも重要な教育であるとも述べられている（小野木，2013）。

しかし一方で、その取り組みは十分とは言えない面が多い。昨年の文部科学省の発表では、総合学習に力を入れている学校ほど、全国一斉学力テストの結果が高かったという結果も公表されており、脱“ゆとり教育”の目

的で行った総合学習の削減が意図せぬ逆効果をもたらしている旨も懸念されている。

このような総合学習をはじめとした、「思考力」、「表現力」、「判断力」の育成を目的として行われる教育手段のひとつに、生物や自然を対象とした体験型の学修が挙げられる。総じて環境教育は、自然環境や生き物を理解するだけでなく、体験の中から、何が問題なのかを見出し（問題発見能力）、その問題を解決する種々の能力（問題解決能力）を伸ばすことにおいて重要な“情操教育”のひとつであると言える。自然の中で生物を対象として協働学修を通じて、高次汎用能力のある人材の育成にも繋がっていくことが期待される。

こうした環境教育の重要性が取りざたされるなか、2007年当時創部40周年を迎えた玉川大学文化会生物自然研究部（以下：生物自然研究部）では、部活動で得てきた生物調査の成果を“見える化”し、その成果物をひとつの形としてまとめ、それ自体が自然の教室とも例えられる玉川学園キャンパス全体を活かした環境教育への貢献を企画した。本稿は、その活動の一環として位置づけられるものである。

玉川学園は幼稚園児から大学院生までの幅広い年齢層が、一つのキャンパスを共有して学修に取り組む総合学園であり、自然が豊富で、多様な環境が存在している。生物自然研究部では、創部以来現在に至るまで、このキャンパス内の生物について、一年を通じて定期的な観察・

¹ 玉川大学農学部生物資源学科

² 玉川大学農学部生物環境システム学科

東京都町田市玉川学園 6-1-1

*現住所：セルズ環境教育デザイン研究所 神奈川県横浜市港北区大豆戸町 924-1-206

調査を続けており、その生息種のデータをまとめてきた。その成果は、毎年“コスモス祭”で継続的に発表され続け、その一部は年報である「野路」にも報告されている。特に、創部10周年記念として刊行された特別号では広範に亘る生物群が網羅的にリスト化されている（生物自然研究部、1980）。このように自然の豊かな総合学園において、高等教育機関で学ぶ大学生によって蓄積された知見を全体で共有するための議論が湧きあがってきた。2007年に創部40周年を迎えた生物自然研究部が、その記念の年を一つの節目として、40年間に亘る野外調査と生物のモニタリングの成果を取りまとめることで、キャンパス内の初等・中等教育機関で学ぶ児童・生徒の環境教育の教材としても活用できる出版物の刊行が企画された。本稿が、玉川大学において生物の生態や自然環境も教育・研究対象としている農学部の紀要に掲載されることにより、広く活用されることを期待するものである。

方法

1. 掲載種の選抜

本稿では、読者が「ふとキャンパス内で生き物を見つけた時に、これを調べればだいたい載っていて、その種や特徴を学ぶことができる。」という役割を担えるものとして作成した。専門家ではなく自然観察の入門者にも分かりやすく利用して頂ける構成にすることで、玉川学園内における環境教育が、無理なく自然に展開されることを主たる目的としている。

図版の作成に取り組んだ生物自然研究部は、観察・調査対象ごとに異なった班で組織されており、この企画に着手した2007年当時は“昆虫班”、“植物班”、“一般班（鳥・キノコ・動物・星など）”の3つの班で構成されていた。そのため掲載する生物種の分類は、その班構成に基づいて大別することとし、“昆虫類”、“植物類”、“キノコ類”、“鳥類及びその他動物（脊椎動物類）”の4つに区分けした。同時に、過去に部活動として観察・調査してきたデータの中から、今回設定した広い読者層でも比較的観察が容易と考えられる代表種を、4分類それぞれから合計200種を抜粋し、さらにその上で、そこから写真図版に掲載する写真入手の可否や、掲載への必要性を再検討し、合計124種に絞りこんだ。

2. 生物の観察に適したエリアの選定

面積が61万平米におよぶ玉川学園キャンパスは、全体的に緑が多い中に幼稚園から大学院までの教育機関がそれぞれ配置されている。この広大なキャンパスの中でも、特に自然が多く観察に適した3つのエリアを「生物の観察に適したエリア」として選定し、“聖山エリア”、“農場エリア”、“東山・奈良池エリア”と表記した（図1）。このエリア区分は、「玉川学園の花マップ100選」で区分されるA地区：Ⅱ・Ⅳ区、B地区：Ⅲ・Ⅳ区、C地区：Ⅲ区にそれぞれ該当するようになっている。

これらのエリアは自然環境がそれぞれ異なっているため、種々の生物を観察する上でも各々の適地がわかりやすく、生態系としても、また環境学習上としても非常にユニークな特徴をもっている。



図1 玉川学園構内に設定した3つの「生物の観察に適したエリア」(A～C地区)

例えば、“聖山エリア”は、基本的に5mないしそれ以上の亜高木が多く、林床は暗めであるため下草が少ない。また、水場もあるが小規模で林内のため、シナントロプの代表的なトンボやカエルなどの生息には適さない。いわゆる“うっそうとした森”といった環境である。

それに対して“農場エリア”は、農学部が実習に使用する田畑がほとんどを占め、その多くは開放的で明るい里山環境である。そのため、夜にはカエル類などの鳴き声がこだまし、日中はチョウやトンボなど、明るい草地を好むシナントロプの代表種を多く観察することができる。

“東山・奈良池エリア”はその中間ともいえる環境で、ギシギシ *Rumex japonicus* やスイバ *Rumex acetosa* が占めている明るく開けた畑もあれば、暗くうっそうとした林床もあり、その中には“奈良池”と呼ばれる水場に、竹林もある。スイバが多いこの場所では、それを食草とするベニシジミ *Lycaena phlaeas* が多く生息するなど、生物同士の関連性もはっきりと見てとることができ、生態系を学ぶ上で好適な環境である。

このように、61万平米の玉川学園キャンパス内は、各々の自然環境とそこに住む生物を関連づけて学ぶことができるため、環境教育を展開する上で最適と言える。そのため、本稿においては、これら3つのエリアをゾーニングして、記載する各生物がどのエリアで観察しやすいかを、視覚的に表記することとした。

3. 生態写真の撮影と解説文作成

本稿に掲載された写真は、原則、著者らや生物自然研究部の部員が観察・調査時に撮影したものである。解説、同定は、各班の部員が自らの観察結果や既存の図鑑類(姉崎, 2004; 浅間ら, 2005; 槐, 2013a, b; 日野, 2007; 北村ら, 2008a, b; 今関・本郷, 2012; 大谷, 2009, 2010; 上田, 2009)を参考文献としながら執筆し、それぞれの生物が観察しやすいエリアを、前述の3つのエリアに分類して表記した。また観察時期は、参考文献の情報を基にしつつも、玉川学園キャンパスオリジナルの内容で表すよう観察記録をもとに設定した。

結果

取り上げた生物種は、1ページに6種を掲載し、全124種、計22ページの構成とした。掲載ページは、見た目としてもアイキャッチに優れ、眺めるだけでも楽しめるような形を意識し、観察に適したエリアや時期も視覚的

に理解できるよう施し、自然観察の入門者であっても親しみやすいレイアウトとした。掲載した種も前述の通り、比較的観察が容易と考えられる代表種を、4つの生物分類群それぞれから抜粋して掲載した。

今回の試みは、生物自然研究部の部員である大学生が自身の研鑽のために積み上げてきた財産を環境教育というステージを通じて、玉川学園全体で共有するものであり、環境教育モデルケースの一つとして位置づけられるものと言える。このような活動を通じて、自らの学ぶ学園環境に親しみを感じ、四季折々の自然の美に眼差しを向け、植物や動物を慈しむ心、豊かな感性を養い、多様な生き物と時空間を分かち合っていることを感じ取れる人材の育成につなげることができればと念じている。

今後も玉川大学で展開されている環境教育が発展し、その中において生物自然研究部の主体的・協働的活動が機能、半世紀に亘る生物観察・調査の活動の成果が、さらなる飛躍に活かされていくことが期待される。

引用文献

- 姉崎一馬 (2004) 野山の樹木. 山と溪谷社, 東京.
- 浅間茂, 石井規雄, 松本嘉幸 (2005) 校庭のクモ・ダニ・アブラムシ. 全国農村教育協会, 東京.
- 槐真史 (2013a) ポケット図鑑 日本の昆虫1400①チョウ・バッタ・セミ. 文一総合出版, 東京.
- 槐真史 (2013b) ポケット図鑑 日本の昆虫1400②トンボ・コウチュウ・ハチ. 文一総合出版, 東京.
- 日野東 (2007) ポケット図鑑 日本の野草・雑草. 成美堂出版, 東京.
- 北村四郎, 村田源, 堀勝 (2008a) 原色日本植物図鑑草本編1改訂版. 保育社, 大阪.
- 北村四郎, 村田源, 堀勝 (2008b) 原色日本植物図鑑草本編2改訂版. 保育社, 大阪.
- 今関六也, 本郷次雄 (2012) 原色日本新菌類図鑑. 保育社, 大阪.
- 村上元気 (2006) 環境教育から持続可能性教育への展開に関する研究—市民団体による活動の分析を中心に—. 東京大学大学院新領域創成科学研究科.
- 小野木三郎 (2013) 今なぜ自然保護が必要か. pp. 15-22. 日本自然保護協会資料集41. 日本自然保護協会, 東京.
- 大谷勉 (2009) ポケット図鑑日本の爬虫両生類157. 文一総合出版, 東京.
- 大谷勉 (2010) 日本の爬虫類・両棲類飼育図鑑. 誠文堂新光社, 東京.
- 玉川大学生物自然研究部 (1980) 野路: 10周年記念特別号. (編) 玉川大学生物自然研究部, 東京.
- 上田秀雄 (2009) 声が聞こえる! 野鳥図鑑. 文一総合出版,

東京.

謝辞

本稿の執筆にあたり、玉川大学生物自然研究部の活動を通して、下記の方々が写真の提供並びに解説文の執筆に御尽力された。記して深甚なる謝意を表したい。また、「玉川学園に見られる身近な生物ガイド」の制作にあたって、様々な面からのご支援をいただいた生物自然研究部の同窓生諸氏に厚く御礼を申し上げる次第である。

◎解説文・写真

昆虫：荒牧遼太郎，葦谷篤志，埴理恵子，川口奈緒美，

國布祐美子，久保良平，前田晴隆，的場勝，中村拓哉，成宮賢一，西海太介，野中盛一郎，尾形英忠，小野正人，角田愛

植物：阿部雅志，藤田円香，原拓也，市川沙央理，五十嵐佳蓮，加藤かほり，前田哲，宮地崇司，宮澤由行，小野正人，野田雄一郎，佐藤由佳，平美砂歌，高橋佳貴，瀧本宏昭，鳥居保邦

キノコ・鳥・動物：三浦拓真，内藤将志，西海太介，櫻井あゆみ，高柳惟，渡邊悠太

(アルファベット順、敬称略、著者も含む)

Environmental Education through Wildlife Field Survey on Campus of Tamagawa Academy and University

Daisuke Nishiumi^{1*}, Shinichi Asada², Masato Ono¹

Abstract

Environmental education for university students was extended to junior-high and a high-school students sharing one campus by using more than 40 years of field surveys and monitoring of 124 species of familiar wildlife (insects, plants, mushrooms, birds and mammals) on the campus of Tamagawa Academy and University by students of the Nature Study Club using color illustrations and brief explanations.

Keywords: Environmental education, wildlife field survey, Tamagawa Academy and University

¹ Department of Bioresource Science,

² Department of Bioenvironmental Systems,
College of Agriculture, Tamagawa University

6-1-1, Tamagawa-gakuen, Machida, Tokyo 194-8610, Japan

*Cells Nature Education Design Laboratory, 924-1-206, Mamedocho, Kohoku, Yokohama 222-0032, Japan





アオスジアゲハ

チョウ目 アゲハチョウ科
開長：32～45mm

翅の形は細長く、スカイブルーに透き通った紋が特徴。玉川学園内ではどこでも普通にみられます。幼虫は、都市部でも街路樹として植えられているクスノキを食べるため、都市部でも多くみられます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



キアゲハ

チョウ目 アゲハチョウ科
開長：36～70mm

全国各地に普通に分布するチョウですが、玉川学園内ではあまり多くありません。アゲハチョウ科では珍しく、幼虫はセリ科の植物を食べます。ニンジンやパセリなどの野菜も好んで食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



カラスアゲハ

チョウ目 アゲハチョウ科
開長：45～80mm

翅はみる角度によって緑や青に光るので、非常に綺麗です。玉川学園内でも蝶道を作って飛んでいる姿をみることができます。幼虫はキハダやサンショウなどのミカン科の植物を食べますが、ミカン類は好みません。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



クロアゲハ

チョウ目 アゲハチョウ科
開長：45～71mm

翅が黒いアゲハの中では、もっとも普通にみられますが、玉川学園内ではあまり多くはありません。オスは後翅の表の上部が白くなることでメスと区別でき、幼虫はミカンやサンショウなどを食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



モンシロチョウ

チョウ目 シロチョウ科
開長：20～30mm

古くから親しまれているチョウの一種。日本各地に分布します。人間の目には雌雄とも白くみえますが、チョウはオスとメスを紫外線で見分けています。幼虫はキャベツなどアブラナ科の植物を食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



スジグロシロチョウ

チョウ目 シロチョウ科
開長：24～35mm

モンシロチョウに似ていますが、翅に黒い筋があることで見分けることができます。モンシロチョウが明るい場所を好むのに対して、本種は薄暗く湿った場所を好みます。オスはレモンのような強烈な匂いかします。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



キチョウ

チョウ目 シロチョウ科
開長：18～27mm

日本中にいる黄色いシロチョウの仲間で、最も飛び方が緩いチョウです。玉川学園内でも各地で普通にみられます。成虫で越冬し、幼虫はネムノキに代表されるマメ科の植物を食べます。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



モンキチョウ

チョウ目 シロチョウ科
開長：22～33mm

日本各地に分布するチョウですが、飛び方は俊敏です。玉川学園内では奈良池や農場付近でみられます。メスには翅が黄色いタイプと白いタイプの二種類が知られています。幼虫はシロツメクサなどを食べます。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ツマキチョウ

チョウ目 シロチョウ科
開長：20～30mm

年に一回、春にのみ姿をみせるチョウの一種です。直線的に飛ぶ特徴があります。オスは翅の先が黄色くなりますが、メスは白いままで。幼虫はイヌガラシなどのアブラナ科の植物を食べます。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ウラギンシジミ

チョウ目 シジミチョウ科
開長：19～27mm

翅の裏面が銀色のため、その名がついたチョウ。熟して落ちた果物などによく集まっています。成虫で越冬し、幼虫はフジヤクスなどの穂花を食べます。写真はメスで、翅の青白い部分がオスでは赤色になります。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ベニシジミ

チョウ目 シジミチョウ科
開長：13～19mm

早春～晩秋まで発生するチョウの一種です。日本全国に普通に分布し、土手や畦などの明るい場所で見られます。幼虫はタデ科のスイバ、ギンギンを食べます。食草の近くの枯葉に卵を産むこともあります。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ムラサキシジミ

チョウ目 シジミチョウ科
開長：14～22mm

翅の表は紫というより青に近い色で、翅の裏は枯葉模様をしているチョウです。日本では関東地方以西の暖地に分布しています。幼虫はアラカシなどのブナ科の常緑樹を食べます。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ムラサキツバメ

チョウ目 シジミチョウ科
開長：20～25mm

昔は関西地方以西の分布でしたが、温暖化の影響で関東でもみられるようになりました。ムラサキシジミの近縁種で、生態は非常によく似ていますが、本種の方が一回り大きいです。幼虫はマテバシイを食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヤマトシジミ

チョウ目 シジミチョウ科
開長：9～16mm

早春～晩秋まで発生するチョウの一種で、一般に秋にその数を増します。日本では北海道以外に分布します。オスの翅の表はスカイブルーで、メスは黒褐色。幼虫はカタバミ科のカタバミを食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



クロヒカゲ

チョウ目 ジャノメチョウ科
開長：23～33mm

林縁や林内を素早く飛び真っ黒いジャノメチョウです。樹液や腐った果物などに集まります。日本では全国に広く分布し、玉川学園内では奈良池エリアなどで、まれにみられます。幼虫はタケ科の植物を食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



サトキマダラヒカゲ

チョウ目 ジャノメチョウ科
開長：26～39mm

蛇の目状の模様が小さめのジャノメチョウで、北海道から九州まで広く分布します。玉川学園では農場エリアや奈良池エリアで樹液に群がっている姿をみることができます。幼虫はタケ科植物を食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



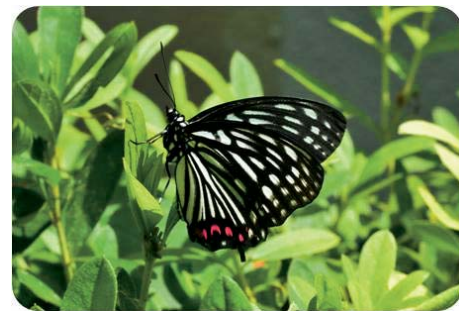
ヒメウラナミジャノメ

チョウ目 ジャノメチョウ科
開長：18～24mm

小さめのジャノメチョウの中では最も普通に見られます。川原や公園などでも発生し、忙しく跳ねるように飛びます。日本各地でみることができ、幼虫はイネ科、カヤツリグサ科の植物を食べています。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



アカボシゴマダラ

チョウ目 タテハチョウ科
開長：40～60mm

日本ではもともと奄美諸島だけに分布していたものが、神奈川県湘南地方に移入し、その後分布を拡大した種。幼虫は市街地の小さいエノキを食べます。春に出現する個体は白くなる傾向があります。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



コムシジ

チョウ目 タテハチョウ科
開長：22～30mm

名前の通り白い3本の筋が名前の由来です。あまり羽ばたかず、緩やかな飛び方をします。玉川学園内では奈良池エリアで見られます。幼虫はクズ、フジなどマメ科植物やニレ科のハルニレなどを食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



キタテハ

チョウ目 タテハチョウ科
開長：22～34mm

翅の縁がギザギザしているのが特徴的で、飛び方は非常に俊敏です。玉川学園内では奈良池エリアで見られます。成虫で越冬でき、幼虫は主にアサ科のカナムグラを食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヒメアカタテハ

チョウ目 タテハチョウ科
開長：25～33mm

秋になると数が増え、様々な花で求蜜する姿がみられます。日本各地で見られ、玉川学園内では奈良池付近で見られます。幼虫はハコグサ、ヨモギ、ゴボウなどを食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ルリタテハ

チョウ目 タテハチョウ科
開長：25～44mm

黒地に瑠璃色の帯が美しいタテハチョウです。翅の裏は真っ黒で樹皮の模様をしています。樹液や腐った果物などに集まります。日本では全国に広く分布し、幼虫はユリ科のサルトリイバラ、ホトギスを食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



イチモンジセセリ

チョウ目 セセリチョウ科
開長：15～21mm

後翅の白紋が一文字に並ぶことから、この名が付けられました。玉川学園内では秋に全エリアで見られます。幼虫はイネ科の植物を食べるため、しばしばイネの害虫として名があげられます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ダイミョウセセリ

チョウ目 セセリチョウ科
開長：15～21mm

一度飛んでも、またすぐに近くの葉に止まるような飛び方をするチョウです。地域によって模様の変異がみられることで知られ、玉川学園内では黒いタイプが観察できます。幼虫はヤマノイモなどを食べます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



オオカマキリ

カマキリ目 カマキリ科
体長：68～95mm

大人の手ほどのサイズがある、大きなカマキリです。体の色は、緑色や褐色など、変化があります。オスはメスよりも小さな体つきをしており、年一回の発生で、成虫を観察できるのは7月頃からです。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ツチイナゴ

バッタ目 バッタ科
体長：38～50mm

体型や大きさは、トノサマバッタやクマルバッタとほぼ同じです。幼虫は緑色ですが、成虫になると褐色になります。草丈の高い草原に多く生息していて、主に葉の広い植物を食べます。成虫で越冬します。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



アブラゼミ

カメムシ目 セミ科
体長：53～60mm

夏になると「ジリジリ」と大きな声で鳴いている代表的なセミです。翅がこげ茶色で体の色も黒いのが特徴です。幼虫の間は土の中で暮らし、夏になると地上に出て脱皮して成虫になります。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ニイニイゼミ

カメムシ目 セミ科
体長：32～40mm

抑揚のある「チー」という声で鳴く、アブラゼミよりも小柄なセミです。その体の模様は樹皮によく溶け込み、鳥などの天敵に襲われにくいようになっています。個体によって、青っぽかったり赤っぽかったり、違いがあります。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ツマグロオオヨコバイ

カメムシ目 オオヨコバイ科
体長：13mm

別名「バナナムシ」とも呼ばれます。頭に楕円形、前胸背に3つの黒い点があり、黄色く鮮やかな翅が特徴的です。カメムシの仲間、本種もイネについて米に黒い斑点をつけることがある害虫です。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



クサギカメムシ

カメムシ目 カメムシ科
体長：14～18mm

全身が地味な色をしているカメムシの仲間です。雑食性で、クサギという木によくつくことから、この名前が付けました。果樹の害虫としても知られ、集団越冬する性質があります。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ヒメホシカメムシ カメムシ目 オオホシカメムシ科
体長：12mm

橙色～赤の地に黒く大きな紋が2つあります。平地に多く分布し、シイ・アカメガシワなどの花や実に集まります。日本では南に行くほど赤くなるようです。逆さまにみると顔にみえる、ユニークな特徴をもっています。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ホシハラヒロヘリカメムシ カメムシ目 ヘリカメムシ科
体長：12～15mm

黄褐色の地に小さい点刻をちりばめた模様で、中央に黒い一対の点があります。さらに腹部横の縞模様があり、地味ですが模様がはっきりしたカメムシです。春～夏にかけてクズの葉などでよくみられます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



マルカメムシ カメムシ目 マルカメムシ科
体長：4～5mm

黄褐色に黒点をちりばめた模様で、その名の通り丸いカメムシです。幼虫は更に特徴的な形で、腹部の端が波のような形になっています。平地や低地のクズをみると、密集しているところがよく観察できます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヨコヅナサシガメ カメムシ目 サシガメ科
体長：16～24mm

腹部の側面が、鮮やかな白と黒の縞模様をしています。動きは遅いですが、他の昆虫を捕まえて体液を吸う、肉食性の昆虫です。赤い個体は脱皮したばかりで、時間が経つと黒くなります。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



オオシオカラトンボ トンボ目 トンボ科
体長：49～61mm

水田や、湿地などに生息するトンボです。樹木に覆われたうす暗い環境も好む傾向があります。写真の個体はオスなので青いですが、メスは全身が黄色になっています。他のトンボに比べ、体がやや太めです。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



オニヤンマ トンボ目 オニヤンマ科
体長：82～114mm

黒と黄色の模様が目立つ、日本に生息する最大級のトンボです。里山や山地の溪流付近で観察できます。成熟したオスは、水場の上を往復するように飛んでいる様子がよくみられます。昆虫類を捕食します。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



カブトムシ

コウチュウ目 コガネムシ科
体長：32～53mm

背面は黒褐色で、オスの頭部と胸部に角がある里山の代表種です。幼虫は腐葉土を食べて育ち、その時に得られた栄養状態によって、成虫になった時の大きさが変わります。クヌギやコナラの樹液に集まります。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



アオドウガネ

コウチュウ目 コガネムシ科
体長：18～22mm

鈍く輝く鮮やかな緑色の翅をもつコガネムシの仲間です。幼虫は土の中で植物の根などを食べて育ち、成虫になると地上に上がってきます。成虫はいろいろな植物の葉を食べるため害虫として知られています。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



シロテンハナムグリ

コウチュウ目 コガネムシ科
体長：16～25mm

暗い緑色または銅色で、かすかに緑色に光り、前翅に白い点々があるのが特徴で、これが名前の由来にもなっています。みる方向によっては銅色や緑色に光ってみえ、非常に綺麗な色合いをしています。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



オオヒラタシテムシ

コウチュウ目 シテムシ科
体長：18～23mm

動物の死体などを食べて生活しており、自然の中の掃除屋として大切な仕事をしています。ミズの死体などに群がっているところをみかけることが多いです。翅先が丸いとオス、突出しているとメスです。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



コフキゾウムシ

コウチュウ目 ゾウムシ科
体長：4～7mm

薄い緑色の“うろこ”のような小さくて細かい粒（鱗片）で体の表面が覆われているのが特徴です。クズやハギなどのマメ科植物を食べているため、大豆の害虫になることもあります。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



クロウリハムシ

コウチュウ目 ハムシ科
体長：6mm

オレンジ色の体に黒い翅をもつ甲虫です。ウリ科の植物の葉を好んで食べるので、それらの周辺ではよくみられます。幼虫は土の中で成長し、羽化して成虫になると地上に現れます。また成虫で越冬します。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



コクワガタ

コウチュウ目 クワガタムシ科
体長：17～50mm

クワガタの中で比較的容易にみられる種です。全体が平べったく、肩間は樹皮の隙間などに潜んでいます。成虫はクヌギやコナラの樹液や街灯に集まり、幼虫はクヌギなどの朽木の中で成長します。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ノコギリクワガタ

コウチュウ目 クワガタムシ科
体長：25～70mm

湾曲したアゴが特徴的な大型のクワガタです。このアゴの内側がノコギリに似ているので、この名前が付けました。コクワガタと同じように、クヌギやコナラなどの樹液や、街灯に集まります。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



オオニジュウヤホシテントウ

コウチュウ目 テントウムシ科
体長：7～8mm

植食性のテントウムシで、ジャガイモやナス、ピーマンなど、ナス科の害虫として知られています。一見、アブラムシを捕食するナミテントウに似ていますが、本種は前翅に光沢がありません。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



キイロテントウ

コウチュウ目 テントウムシ科
体長：4mm

ナナホシテントウの半分ほどの大きさで、背中が黄色一色。比較的種類を調べやすい、特徴的なテントウムシです。植物の「うどんこ病」の原因となるカビの仲間を食べる肉食性のテントウムシです。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ナナホシテントウ

コウチュウ目 テントウムシ科
体長：7mm

背中に特徴的な7つの斑紋がある、もっとも一般的なテントウムシです。日当たりの良い草むらなどに多く分布しています。主なエサはアブラムシで、春はカラスノエンドウにつくアブラムシを食べている姿がよくみられます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ナミテントウ

コウチュウ目 テントウムシ科
体長：6～7mm

テントウムシの代表種です。アブラムシを捕食する益虫として知られています。前翅の斑紋には変異があり、黒地に赤い点が二つの“二紋型”や、赤地に黒い点の“紅型”など、大きく分けて4タイプの模様があります。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ゴマダラカミキリ コウチュウ目 カミキリムシ科
体長：25～35mm

光沢のある濃紺の体に、白い点が散らばる模様が特徴的なカミキリムシです。体全体に少し青味も帯びています。バラやミカンなどの樹皮を食べてしまうため、害虫として知られています。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヤマトタマムシ コウチュウ目 タマムシ科
体長：30～40mm

緑と赤の金属光沢に輝く甲虫です。夏の炎天下の日に、よくエノキ樹上を飛び回っています。幼虫はエノキ、サクラ、ケヤキなどの材を食べます。古来より珍重され、玉虫厨子の装飾として使われています。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



オオスズメバチ ハチ目 スズメバチ科
体長：27～45mm

スズメバチの仲間中で世界最大の種。地中や木の“うろ”に巣を作り、他の昆虫を狩ってエサとしています。4～6月頃は女王蜂も外に出て、働き蜂と同じように狩りや巣作り、子育ても行います。最大の養蜂害虫。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



キロスズメバチ ハチ目 スズメバチ科
体長：17～24mm

屋根裏、軒下などに巣を作る都市部で増加傾向にあるスズメバチです。体のサイズは小さめながら巣の規模は最大級になり、働き蜂の数が1000匹以上になることもあります。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



コマルハナバチ ハチ目 ミツバチ科
体長：10～20mm

春の訪れを告げる代表的な昆虫です。女王と働き蜂は、体全体が黒い毛で覆われ、腹部先端の真紅の毛がはっきりしています。一方、少し遅れて出現するオス蜂は全身がレモン色で、まるで別種のような感じです。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



セイヨウミツバチ ハチ目 ミツバチ科
体長：12～13mm

養蜂業で用いられる欧州産の導入種です。抵抗性をもたない天敵の影響などによって、野生化できないため、関東で見られるのは飼育個体です。巣から半径2km程度で活動しています。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



アブラナ (ナハナ) アブラナ目 アブラナ科
草丈：50～80cm

早春から咲き、春を感じさせてくれる一年草。花期になると4弁の黄色い小さな花を咲かせます。実から菜種油が採れることが有名で、茎・葉もほのかな苦味があり、おひたしなどにすると美味しく食べられます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



シャガ キジカクシ目 アヤメ科
草丈：30～60cm

中国原産の帰化植物で、園芸や斜面地の土砂崩れ防止などの用途でも利用されています。葉は光沢がある緑色で、長さは30～60cm程です。地下茎を使って数を増やしています。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ニワゼキショウ キジカクシ目 アヤメ科
草丈：10～30cm

日当たりの良い道端や芝生などに多く集まって咲いている多年草です。北米原産の植物で、花がセキショウに似ていることからニワゼキショウという名が付けられました。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヒガンバナ キジカクシ目 ヒガンバナ科
草丈：30～50cm

秋の彼岸の時期に花が咲くことから、この名前が付いたと言われています。別名は曼珠沙華（マンジュシャゲ）。あぜ道などでよくみかけられます。また、球根にはリコリンという毒が含まれています。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



シュンラン キジカクシ目 ラン科
草丈：10～25cm

乾燥した林の中に生えている植物です。花は葉より低い位置に生えていて、直径およそ3cm、周りが黄緑色、中が白色で中央に赤い斑点があるのが特徴です。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



シラン キジカクシ目 ラン科
草丈：30～70cm

多年草で、やや湿った林内などに生育し、茎の先端に4～5月にかけて、紅紫色の花を数個咲かせます。葉は長さ20cm、幅2～4cm程度で、基部は茎を抱くようにつきます。花の色から「紫蘭」と名付けられました。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ネジバナ

キジカクシ目 ラン科
草丈：10～30cm

日当たりの良い芝生や土手の草地などのいたるところに生える、小型のラン科の多年草です。茎に小花が「らせん状」に並ぶようにつくのが特徴的で、このねじれた姿から「ネジバナ」と名が付けました。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



セイトカアワダチソウ

キク目 キク科
草丈：1～2m

北アフリカから日本に帰化した外来種です。空き地などに多く生息しており、黄色い泡状の花が特徴的です。根から他の植物の成長を妨害する物質を分泌し、優先的に生育することができます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



セイヨウタンポポ

キク目 キク科
草丈：10～30cm

春から秋まで花期が続くので、長い間花をみることが出来ます。本種は、花の下の「総苞片」が反り返っています。在来種と本種の雑種も発生しているため、遺伝子汚染の例として挙げられることもあります。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



カントウタンポポ

キク目 キク科
草丈：10～30cm

タンポポを丁寧に観察すると、帰化植物のセイヨウタンポポとは別に、在来のカントウタンポポが混ざっていることがあります。花の下の「総苞片」が反り返っていないとカントウタンポポ、反り返っていればセイヨウタンポポです。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ブタナ

キク目 キク科
草丈：20～60cm

欧州原産の多年草で、昭和初期に日本で初めて確認されました。一見、茎の長いタンポポのようにみえますが、葉は根生し、毛が多いです。道の脇や畑地で生育していることが多いです。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



フキ

キク目 キク科
草丈：10～45cm

早春に「ふきのとう」として知られている多年草で、食用になることでも有名な植物です。花は雌雄異株で、雄株の花は黄白色、雌株の花は白色です。日陰干しの「ふきのとう」は、せき止めにも利用されます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



オオイヌノフグリ

シソ目 オオバコ科
草丈：10～20cm

日当たりの良い道端などでよくみられる小さな植物で、欧州原産の帰化植物です。花は8～10mm程の瑠璃色で、わずか1日しか咲きません。小さく1日しか咲かない花が、次から次へと咲いていきます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



カキドオシ

シソ目 シソ科
草丈：5～25cm

道端や空き地などに生えている植物です。花が終わる時期になると茎の長さは1mを超え、地を這うように伸びます。この性質で、垣根を通り抜けることからこの名前が付けました。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヒメオドリコソウ

シソ目 シソ科
草丈：10～25cm

欧州原産の外来種で、いわゆる雑草として、あちこちに生えています。花は淡い紅紫色をしており、葉のつけ根から数個ずつ輪のように花を咲かせます。シソ科の特徴で、茎は四角い形をしています。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ホトケノザ

シソ目 シソ科
草丈：10～30cm

芝生や道端でよくみられる花です。ヒメオドリコソウが生えているところの近くに、本種も一緒に生えていることが多いです。「仏の座るハスの花」にたとえられて「仏の座」と名付けられました。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



キンモクセイ

シソ目 モクセイ科
樹高：3～6m

キンモクセイは中国原産の常緑小高木樹で、日本には江戸時代に渡来しました。主に庭園に植栽されます。秋になると小さいオレンジ色の花を咲かせ、独特の良い香りが漂います。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



キュウリグサ

(目名称不定) ムラサキ科
草丈：15～30cm

畑や野原などでよくみかける植物です。花は2mm位の小さな薄紫色で、花びらに5つの深い切れこみがあり、全体がぜんまい状に巻いていきます。葉をもむとキュウリのような香りがするため、この名が付けました。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池

植
物



カンアオイ コショウ目 ウマノズクサ科
草丈：6～10cm

日光があまり当たらない湿った場所に生えており、冬でも枯れずに緑色の葉をつけているため、この名前が付けました。葉は6～10mmの心形（ハート型）で、濃い緑に白い斑紋や白い脈があるのが特徴です。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ドクダミ コショウ目 ドクダミ科
草丈：10～40cm

日陰の林や野山に生える多年草の一種で、白く小さな花をたくさんつけます。葉はハートの形をしていて、少し紫がかっているものもあります。葉には独特な匂いがあり、漢方薬やお茶などにも使われています。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ギシキシ ナデシコ目 タデ科
草丈：40～100cm

湿っている道端や水辺などを好む多年草の植物です。茎の高さは最大で100cm程までなり、茎の上部に複数の花をまとめて咲かせます。葉は長楕円形で、若葉には粘りがあり、おひたしなどにして食べられます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



スイバ ナデシコ目 タデ科
草丈：30～100cm

あぜ道や土手などに生えている多年生の植物です。葉は細長く、茎を抱くように生えています。スイバの茎を折ってかじると酸っぱい味がし、これが名前の由来になっています。酸味の成分はシュウ酸です。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



サツキ ツツジ目 ツツジ科
樹高：0.5～5m

旧暦の五月（さつき）に花が咲くことから名が付いた樹木です。岸の岩壁や岩の隙間から生え、非常に丈夫です。葉は互生で針状、根や葉が密集して生え、冬になると葉が紅葉します。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヒラドツツジ(オオムラサキ) ツツジ目 ツツジ科
樹高：1～2m

品種名“オオムラサキ”で知られるツツジの一種で、種名を“ヒラドツツジ”と言います。主に造園用や公園、庭木、街路樹として植えられている低木性の植物で、花の色には様々な色のタイプがあります。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヤブツバキ

ツツジ目 ツバキ科
樹高：2～5m

葉がとても厚く硬いことから厚葉木といわれ、葉につやがあるため津葉木ともいわれます。本州～沖縄の海岸や近くの山地に生え、庭木や生花にも利用される常緑高木です。種子からは油が取れます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ケヤキ

バラ目 ニレ科
樹高：10～30m

街路樹などによく利用される落葉高木です。暖地では丘陵部～山地に、寒冷地では平地まで生息し、大気汚染には弱いという特徴があります。秋の紅葉が美しい樹木の1つでもあります。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ウメ

バラ目 バラ科
樹高：2～6m

春には香りの良い赤やピンク、白といった様々な色のきれいな花を咲かせる落葉小高木です。葉は楕円形、樹皮は灰褐色で、割れ目があります。6月頃には果実が熟し、熟した果実は食用に使われます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヘビイチゴ

バラ目 バラ科
草丈：2～10cm

あぜ道などに生える多年草で、茎には長くてやわらかい毛が密集しています。花の時期は短いです。果実の時期は長く、地上を這って節から芽を出して繁殖します。葉は互生で、写真のような実をつけます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



タチツボスミレ

キントラノオ目 スミレ科
草丈：5～15cm

日本を代表するスミレの一種です。葉の形はハート形で、細かい鋸歯があり、花色は薄い紫をしています。分布域が広く、その環境も様々で、個体変異も多く、いくつかの変種が区分されています。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ムラサキケマン

キンボウゲ目 ケシ科
草丈：20～50cm

やや湿った草原や市街地の空き地、農村の山道沿いなどでみることができます。花は紅紫色、ときには白で、長さ2cm程の筒状です。アルカロイドを含み有毒ですが、“ウスバシロチョウ”の食草です。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



フジ

マメ目 マメ科
花序：20～80m

公園などの“藤棚”に利用される、つる性の植物です。小さな花がたくさん連なった花序の大きさは、時に1mを超えることもあり、花が咲く4～5月には、クマバチが訪れている様子も観察できます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



クズ

マメ目 マメ科
草丈：1～10m

東南アジアに分布し、各地の山野に生える多年草です。全体に粗い毛が生えています。茎は基部が木質であり、つる性で時に10m以上にもなります。葉は互生、花は長さ15～18cmの総状花序です。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



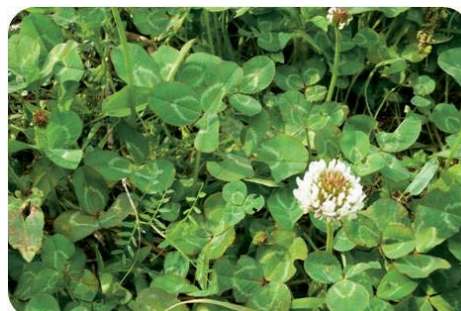
カラスノエンドウ

マメ目 マメ科
草丈：30～100cm

道端などの日当たりの良い場所に生えており、紫色の花が咲く春にはナナホシントウなどの昆虫達も一緒にみることができます。黒く熟したマメは、よく晴れた日に勢いよく種を弾き飛ばします。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



シロツメクサ

マメ目 マメ科
草丈：5～10cm

別名クローバーとも言われる、道ばたや空地などいたるところに生えている植物です。シロツメクサという名前は江戸時代の輸入品の保護のために、この植物を緩衝材として詰めていたからこの名前が付けました。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヒトリシズカ

センリョウ目 センリョウ科
草丈：10～30cm

草地や日陰の林などに生える多年草の植物です。茎は紫がかった褐色の節があり、葉には光沢があります。中心から白い糸状の花を咲かせ、花穂を1つつけることからこの名が付けました。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



フデリンドウ

リンドウ目 リンドウ科
草丈：5～10cm

日当たりの良い野原に生育する二年草で、2cm程度の青紫色の花を茎の先に数個咲かせます。葉はやや厚く、裏面は赤紫色を帯びることが多いです。花の姿が、筆の穂先に似ていることから名付けられました。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



スギナ

トクサ目 トクサ科
草丈：10～20cm

一般的に“つくし”と呼ばれているシダ植物のことです。日当たりの良いあぜ道などを観察すると、よくみることができます。春先に“つくし”が生え、先端から胞子を放出します。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



イロハモミジ

ムクロジ目 ムクロジ科
樹高：10～15m

山林に生え、庭木としても植えられることが多い落葉高木です。葉は5～7つに裂けていて、花は4～5月に暗赤色の花が垂れるように咲きます。種は翼状で、7～9月になります。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ガクアジサイ

ユキノシタ目 ユキノシタ科
樹高：1～2m

ガクアジサイの花は、中央部の「両性花」と、外周部の「中性花」から構成されています。よく、「まだ咲ききっていない」「花が終わりかけている」と勘違いされますが、このような咲き方をするのが特徴です。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ユキノシタ

ユキノシタ目 ユキノシタ科
草丈：20～50cm

湿った岩の上に生え、庭で栽培することも多い半常緑多年草です。全体に長毛が密集して生えています。葉はロゼット状に付いており、天ぷらなどでおいしく食べられることもできます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ミツマタ

フトモモ目 ジンチョウゲ科
樹高：1～2m

枝が必ず3つに分かれる特徴がある植物です。ミツマタの名は、ここから名付けられました。春の訪れとともに淡い黄色の花を咲かせます。和紙の原料となり、紙幣などにも利用されます。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



クヌギ

ブナ目 ブナ科
樹高：15～20m

クヌギはブナ科コナラ属の落葉樹の一種で、樹皮は暗い灰褐色で厚いコルク状で縦に割れ目ができます。丘陵地の森や林の中、平地の林や日かげに生息しています。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



アカマツ

マツ目 マツ科
樹高：20～30m

常緑の針葉樹で、葉が2つずつしている二葉松と言われます。明るい場所を好む陽樹で、土のあまりないところや、かなり寒い場所でも耐えることができます。樹皮が赤っぽいことからこの名前が付けられました。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



キブシ

クロツソマ目 キブシ科
樹高：3～8m

山地や公園などでごく普通に生えている植物です。葉を出す前に長さ約7mmの花を咲かせ、小さな花をぶら下げた姿がよく目立ちます。樹皮は褐色で、枝は赤褐色または暗褐色で光沢があります。

花期 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



アミガサタケ

チャワンタケ目 アミガサタケ科
高さ：4～12cm

春に林や草地などでよくみられるキノコです。学内では道路脇の植え込みに生えていることもあります。見た目はグロテスクですが、ヨーロッパではモリーユと呼ばれ、美味しく人気のある高級食材です。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



カワラタケ

タマチョレイタケ目 タマチョレイタケ科
傘幅：1～5cm

とても固いきのこで、乾いた状態のものが一年を通してよくみられます。色は個体差があります。カワラタケという名前は、木にびっしり生えている様子が瓦屋根のように見えるからとされています。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



エリマキツチグリ

ヒメツチグリ目 ヒメツチグリ科
傘幅：2～5cm

若いうちは皮に包まれているが、成熟して雨が降ると皮は開いて反り返ります。中央は袋のようになっていて、雨粒などが当たると、頂点の穴から胞子を吹き出します。ツチグリと異なり、外皮は開閉しません。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ツチグリ

ニセショウロ目 ツチグリ科
傘幅：2～4cm

まるで木の実のような形をしたキノコです。外側に厚い皮があり、晴れた日には丸くなっていますが、雨が降ると、この外皮が開いて風船状の丸くて薄い内皮が現れます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



カニツメ スッポンタケ目 スッポンタケ科
高さ：3～10cm

その名の通り、カニの爪のような外見のキノコです。卵のような白い球体から生えてくるので、下部には卵の殻のような“つぼ”が残ります。先端に付いている黒い粘液は「グレバ」と呼ばれ、とても臭い匂いがします。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



イヌセンボンタケ ハラタケ目 ナヨタケ科
傘幅：1cm

広葉樹、針葉樹を問わず、その切り株や枯れた部分にまとまって生えます。時に1000本もあるのではないかとこの程の数が生えるので、この名があります。小さく壊れやすいキノコで、色は白色から薄紫色です。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ハナオチバタケ ハラタケ目 ホウライタケ科
傘幅：1cm

紙のように薄い傘に針金のような黒く細長い柄をもち、ひらひらして、まるで花のように可愛い姿をしたキノコです。色は白色、桃色、赤色、茶色など個体差があり、その名の通り落ち葉や木の枝から生えます。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ヒラタケ ハラタケ目 ヒラタケ科
傘幅：3～20cm

広葉樹の切り株や倒木などに群生するキノコです。傘は灰色から薄茶色をしており、若い時の傘はシメジのような形をしていて、成長するとスプーンのような形になります。食用の「エリンギ」は、同じ属のキノコです。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



テングタケ ハラタケ目 テングタケ科
傘幅：4～13cm

夏から秋の初めにかけて発生するキノコです。学内では、いくつかの近い仲間が植え込みや道路脇に生えます。強いうま味のある物質を持っていますが、これが同時に毒成分でもあります。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ベニタケ科の一種 ハラタケ目 ベニタケ科
傘幅：3～10cm

鮮やかな赤色をしたキノコです。その色は草木に映え、遠くからでもよく目立ちます。辛さを伴う毒があり、死亡した例もあるようです。種を特定するのがとても難しいキノコの一つです。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ウグイス

スズメ目 ウグイス科
体長：15cm

春に「ホーホケキョ」と聞こえる声で鳴くことで知られています。この声は「さえざり」と言われ、オスだけが繁殖期になわばりを守るために鳴く声です。体色は目立たない灰色を帯びた緑褐色です。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



メジロ

スズメ目 メジロ科
体長：6～10cm

スズメよりも小さい小鳥です。名前の通り、目は白くふち取りされています。体はくすんだ黄緑色で、これを「鶯色」と連想する人も多いようですが、実はメジロの体色なのです。実際のウグイスの色は、もっと地味です。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



スズメ

スズメ目 ハタオリドリ科
体長：15cm

日本全国に分布する最も一般的な鳥ですが、人のいるところで生活するため、山奥ではみかけません。人里などで、地面に落ちている草の種や穀物をチュンチュンと鳴きながらついでに食べている様子に出会えます。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



シジュウカラ

スズメ目 シジュウカラ科
体長：15cm

スズメとほぼ同じ大きさの白黒の小鳥です。黒い頭に白いほほ。さらにネクタイのような胸から腹にかけて伸びる黒く太い線が特徴的です。ツツビ、ツツビと澄んだ声で鳴き、冬は他の小鳥との混群を作ります。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ハクセキレイ

スズメ目 セキレイ科
体長：21cm

すらりとした体に長い尾を持つスマートな鳥で、この尾を水平にして地面を素早く歩く姿が特徴的です。水辺近くなどに多いですが、町中にもよくいます。飛ぶときは「チチッ」と鳴きながら波打つようにして飛びます。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



ヒヨドリ

スズメ目 ヒヨドリ科
体長：26～28cm

ピヨピヨと大きな声が聞こえればこの鳥が近くにいる証拠です。灰色のすらりとした体に、ほほの「赤えくぼ」が特徴的です。好きな食べ物は木の実で、特にピラカンサやナンテンなどの赤い実を好みます。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 **聖山** **農場** **東山・奈良池**



シロハラ

スズメ目 ツグミ科
体長：24cm

秋になると外国からやってきて冬中を日本で過ごす「冬鳥」の一種です。体の色は全体に目立たない茶色で、名前の通りにおなかの色は白っぽく、体はツグミくらいの大きさです。木の実や虫を食べています。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



カルガモ

カモ目 カモ科
体長：60cm

水の上をすいすいと泳ぐ、ガン・カモの仲間です。カモの仲間には珍しく、メスとオスはまったく同じ模様で、体は茶色、黒いくちばしの先は黄色、くちばしのつけ根から目じりの方へ茶色の線が入っています。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



キジ

キジ目 キジ科
体長：60～80cm

古くから日本に住んでいて、昔話にも登場する鳥です。警戒心が強いめか、なかなか人の目の前に現れてくれません。オスは真っ赤な顔で、色合いが美しい羽を身にまとい、メスは地味な茶色のまだら模様です。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



コジュケイ

キジ目 キジ科
体長：26～30cm

丸みのある体系をした、ウズラのような鳥です。鳴き声がとても特徴的で、「チョットコイ、チョットコイ」と聞こえる鳴き方をします。基本的に群れて行動しており、木々の茂ったところでよくみられます。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



キジバト

ハト目 ハト科
体長：30～35cm

山地だけでなく、市街地でもよくみられる鳥です。羽のうろこ模様が美しく、名前の由来は、この羽の模様がキジのようであることからきています。灰色のカワラバト（ドバト）とは違い、基本的に1羽で行動します。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



チョウゲンボウ

タカ目 ハヤブサ科
体長：30～35cm

体は小さいですが、れっきとした猛禽類の仲間です。ネズミや小鳥などを食べています。耕地や草原の上で羽ばたきながら停止し、獲物に狙いを付けている姿は特徴的です。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



アオダイショウ 有鱗目 ナミヘビ科
体長：100～190cm

日本で最も多くみられるヘビです。日の当たる塀や木の上を好むので、樹上や柵を探すと、たまにみることができます。性格はおとなしく毒もありませんが、つかんだりすると咬まれることがあるので注意が必要です。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



シマヘビ 有鱗目 ナミヘビ科
体長：80～150cm

アオダイショウと並び、日本でよくみられるヘビです。こちらは地上を好む性質があります。名前の通り体に4本のシマ模様がありますが、まれにシマの無い個体や全身黒い個体もいます。赤く鋭い目が特徴です。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



ニホンアマガエル 無尾目 アマガエル科
体長：22～45mm

体色は緑色や灰褐色で、生息環境によって変わります。頭の側面に黒い線上の模様が入るのが特徴で、個体によって変化があります。指先には吸盤があり、ガラス面でもくっつくことができます。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池



タヌキ 食肉目 イヌ科
体長：50～60cm

日本の代表的な動物で、誰もが名を知る夜行性のほ乳類です。雑食性でカエルや昆虫、木の実などを食べます。“ため糞”という、特定の場所に糞をする習性があり、これで個体間の情報交換を行うようです。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

観察適地 聖山 農場 東山・奈良池

玉川学園でみられる身近な生物ガイド

2016年10月 発行

- ◎執筆 玉川大学 生物自然研究部
- ◎監修 小野正人、浅田真一
- ◎編集 西海太介

◎解説文・写真

- 昆虫**：荒牧遼太郎、葦谷篤志、埴理恵子、川口奈緒美、國布祐美子、久保良平、前田晴隆、的場勝、中村拓哉、成宮賢一、西海太介、野中盛一郎、尾形英忠、小野正人、角田愛
- 植物**：阿部雅志、藤田円香、原拓也、市川沙央理、五十嵐佳蓮、加藤がほり、前田哲、宮地崇司、宮澤由行、小野正人、野田雄一郎、佐藤由佳、平美砂歌、高橋佳貴、瀧本宏昭、鳥居保邦
- キノコ・鳥・動物**：三浦拓真、内藤将志、西海太介、櫻井あゆみ、高柳惟、渡邊悠太